

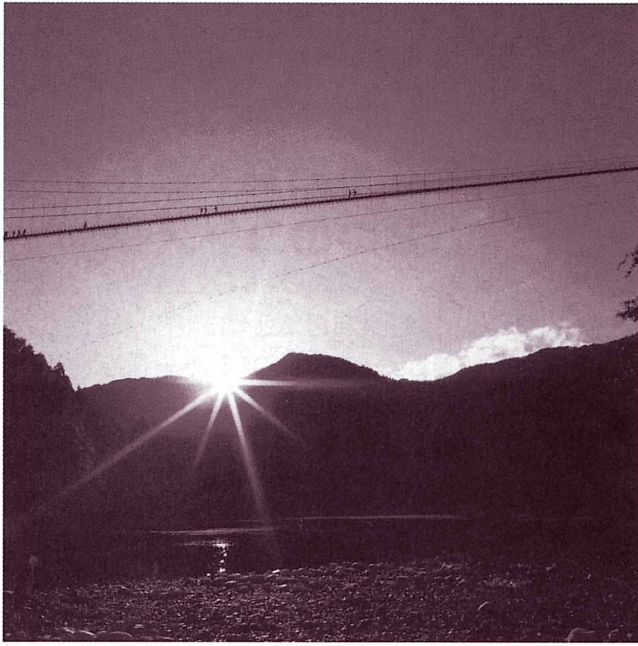
十津川村



十津川村は、和歌山県・三重県に接する奈良県の最南端、紀伊半島のほぼ中央に位置し、森林と水資源に恵まれた村です。
 大きさは東西33・4km、南北32・8km。面積は672・35km²で、奈良県の約5分の1の広さを占め、村としては日本一の広さをもち、その96%が山林です。

谷瀬のつり橋

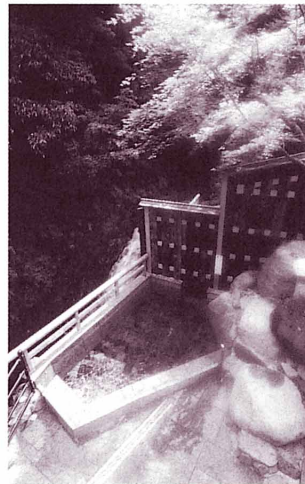
上野地から対岸の谷瀬へは、高さ54m、長さ297mの日本一長い鉄線の吊り橋が架かっています。昭和29年に架けられた生活用のつり橋が日本最長という記録とともに、周囲の山々が織りなす眺望や、渡る際に味わえるスリル感などが十津川一の観光名所となっています。



谷瀬のつり橋

十津川温泉郷

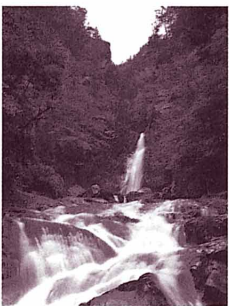
村には、湯泉地温泉・十津川温泉・上湯温泉という奈良県下唯一の天然高温泉があり、全国でも数少ない「源泉かけ流し」の温泉で、すべての温泉利用施設で一切循環や沸かし直しのない源泉かけ流しを徹底しています。十津川村の自然を満喫し、心も身体も癒される保養地として、全国に知られています。



湯泉地温泉
滝の湯 公衆浴場

笹の滝

笹の滝は、国道168号線滝川口より東に12km、渓谷美豊かな滝川の上流にあります。落差は約32m、しぶきをあげて流れ落ちる滝そのものの姿もさることながら、滝壺より溢れ出て、白くなめらかな岩肌を洗う流れも一見の価値があります。この笹の滝は「日本の滝百選」の一つに、またこの滝を上流とする滝川渓谷の水は、県内31カ所の「やまとの水」の一つにも選ばれています。



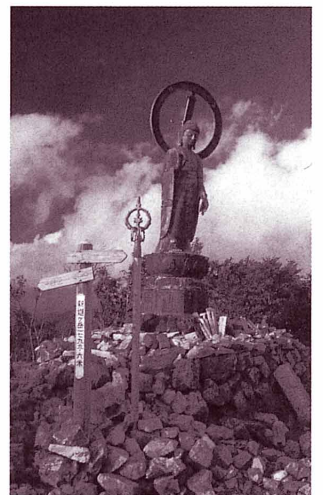
笹の滝

世界遺産

平成16年7月、第28回ユネスコ世界遺産委員会で、大峯奥駈道と熊野参詣道小辺路が「紀伊山地の霊場と参詣道」として世界遺産に登録されました。

大峯奥駈道は75靡と呼ばれる霊地や行場が遺跡として各所に残り、祠や諸仏尊像などは良好な状態で保存・管理されています。十津川村にはこのうち35の靡があります。

熊野参詣道小辺路は、伯母子峠・三浦峠・果無峠と1000m級の峠を3つ越えて熊野本宮へと至るルートで、山中には石仏や地藏、苔むした石畳、茶屋跡や屋敷跡等、昔の古道の雰囲気や数多く残っています。この参詣道は、ほとんどが山中を通り、昔ながらの歩き旅を体験することができます。



釈迦ヶ岳 (釈迦像)



果無峠 (石畳)

十津川村役場ホームページ
<http://www.vil.totsukawa.lg.jp>